

(事後評価)

大学間連携と女性研究者支援 in 秋田

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：秋田大学（総括責任者：吉村 昇）

プロジェクトの概要

<女性研究者のための具体的な取組>

①支援相談窓口（コンシェルジュ・デスク）とコーディネーターの設置、②地域の女性研究者支援のための調査・企画と代替要員制度、③次世代女性研究者育成支援、④意識啓発のための講演会・シンポジウム・フォーラム・FD の企画・実施、を行い、県内の大学・行政・教育機関などとの連携により、女性研究者を支援する。

<期待される効果>

この取り組みにより、多様な勤務形態における研究活動が可能となり、女性研究者数と比率の増加、育児・介護休業の取得しやすい職場環境、ワークライフバランスの改善、次世代女性研究者育成、秋田大学のみならず秋田県の高等教育機関での女性研究者支援体制の進展が効果として期待される。さらに、この取り組みにより、研究教育機関としての持続可能性も高まり、地方の中規模および小規模大学の女性研究者支援のモデルとなることが期待される。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施機関終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

地方大学の問題点を良く分析し、地域の核となる大学として、県内高等教育機関の参加する大学間連携連絡会議を発足させ連携を進め、県内の女性研究者支援を牽引したことが評価できる。さらに、女性研究者のための相談体制の強化、病児・病後児保育室の新設、研

究支援員制度の設置等、意欲的に取組を進めた。5年後の女性研究者比率の目標値が達成されることを期待する。

・**目標達成度**：所期の計画に沿って、数値目標は未達だが、女性研究者のための支援体制整備、大学間連携体制の整備を進め、概ね目標を達成しており評価できる。今後の、女性教員比率、女性研究者比率、女子大学院生比率の上昇を期待する。

・**取組の内容**：女性研究者のための支援強化として、相談窓口の設置、支援ガイドブックの作成、研究支援員の配置、病児・病後児保育室の設置、優秀女性研究者表彰制度の創設等、意欲的に種々の取組を実施していることが評価できる。県内の高等教育機関との大学間連携連絡会議を発足させ、人材情報データベースに県内他機関の登録者を含めており、今後の運用により更なる地域連携が期待できる。

・**システム改革の成果**：男女共同参画の意識改革が進み、女性研究者がライフイベントに際し休業を取得しやすい環境が整備された。さらに、女性研究者の科研費採択率の上昇、大学院博士後期課程における女子大学院生の増加等の成果が上がっており、県内連携機関への波及効果もあり評価できる。

・**実施体制**：学長を委員長とするプロジェクト管理委員会で女性研究者支援の取組を定期的に検証しており、全学的な実施体制が構築されており評価できる。さらに、県内の高等教育機関と連携するための実施体制も構築された。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：効果のあった支援制度については拡大継続するなど、予算措置も含め事業実施期間終了後の取組に具体性があり、取組の持続性・発展性が期待でき評価できる。今後は、代替要員制度、人材情報データバンクの運用を継続し、効果的な研究支援サポート体制を維持するとともに、女性研究者比率の向上に向けた更なる取組の策定を期待する。